

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入) 2021

事業所番号	2690500083		
法人名	医療保人社団 清怜会		
事業所名	グループホーム京都久世の家		
所在地	京都市南区久世殿城町458番地		
自己評価作成日	2021年9月16日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 野の花		
所在地	京都市左京区南禅寺下河原町1番地		
訪問調査日	令和3年10月13日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

他施設より安価で生活保護の方々でも入居可能等、広く受け入れられるようにしているのも、その一環です。これからも、介護の質も高めながら、充実させていきたいと思っています。また他の事業所と連携を図り利用者様にとって、より良いケアの実現を目指し日々、支援できる様に励んでいます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

京都市南西部にある2ユニットのグループホーム、開設7年になる。交代したばかりの管理者は職員に役割を決め、やりがい感をもつことを目指している。職員は若い女性が多く、利用者に対して家族のような気持ちで接している。コロナ禍が続き、家族と面会できず、地域やボランティアによるイベントがなく、美しい景色を見に行くこともままならない生活をしている利用者、職員はどのように対応することがいいのか、いつも考えている。職員自身が楽しい気持ちと笑顔で接すること、少しでも利用者とのおしゃべりを心がけ、利用者のたゆみないユーモアに職員自身が慰められている。外出できないため季節を感じるようにホールの壁に季節の景色を制作、張り出している。パースディケーキは利用者と一緒に飾り付け、朝食は利用者のリクエストの卵どんぶり等、日常のちょっとした工夫を続けている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域と手をつなぎみんなが笑顔になれる暖かい家庭をつくりますを事業所独自の理念を実践しています。	グループホームの理念は開設時に当時の施設長が策定している。「地域と手をつなぎ、みんなが笑顔になれる暖かい家庭をつくります」。これを各フロアに掲示、職員研修をしている。職員は理念の実践として毎日レクリエーションをして利用者の笑顔を引き出し、職員自身もお互いに笑顔で対応している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	現在はコロナウィルスにより参加や交流はできていません。	町内会に加入しているものの現在はコロナ禍のため行事は中止されている。ホームの玄関を入ったところに掲示板を立てパンフレットを掲示している。利用者はふだん近くの神社へ散歩に行き四季の風景を楽しんでいる。ホームの日用品は近くの店舗で購入していること、ホームは南区認知症ネットワーク安心窓口として地域の方の認知症や介護の相談に対応していること等が地域貢献である。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議で情報を提供・交換している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	サービスの状況をプリントし会議の席上で出席者の皆様に意見を述べてもらい向上に生かしている。	故・ヒヤリハット、行事等の報告を文書で送り隔月に開催、議事録は公開している。運営推進委員は久世地域包括支援センター管理者、家族等が参加している。意見は「コロナ対策を万全に行うことでインフルエンザや風邪にも対応できるのでしっかり行って下さい」。この意見により換気、消毒等を行い、職員も出勤時検温することにより利用者の熱発や風邪症状が減少している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	生活保護の方の入居も有り行政との連携など常にとっている。	市とは入居の相談等を含めて必要な報告や連絡をし連携を保っている。地域ケア会議、認知症ネットワークに参加している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束0を目標として内部の研修をおこなっている。	身体拘束をテーマに年4回職員研修をしている。職員はやむを得ず拘束する場合の3要件やスピーチロック等を認識している。身体拘束の事例はない。居室でセンサー使用の利用者について家族同意をとっている。玄関ドア ユニットドア等、日中は施錠していない。非常口、エレベーターはロックしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	カンファレンスなどで職員同士意見を出し合い管理者に助言をもらい内部・外部で研修をおこなっている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	入居者の方で後見人の利用や日常生活自立支援事業の利用をされている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	十分な説明を行い理解納得をして頂けるように努める。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者様家族様に運営推進会議に参加して頂き要望や感想など意見を頂いている。	家族の面会は現在「月に1度、玄関のドア越しに」と制限している。飛沫感染や空気感染予防のためである。面会の少ない人は年1回くらいである。ホームの行事には招待していない。家族会をしていない。家族には毎月担当職員からその月の利用者の様子を伝えている。運営に関する家族の意見は聞いていない。	家族は職員と共に利用者を支える車の両輪のひとつである。コロナ禍を理由に家族との連携が途切れることなく、こういった時期こそ相互に連絡を密にして情報交換や意見交換により、支援体制を構築すべきである。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	随時、管理者と職員が会話し利用者情報を把握し意見を出し合い話あっております。事故等に関しましても都度、現状からなぜ事故がおきたのかを考え、以後未然に防ぐ為に解決案を提示しております。	職員会議は定例として実施せず管理者が毎日各フロアに行き状況や相談事を受け付けている。服薬ミスが発生により、ダブルチェックを徹底していないことが判明している。同業者との交流は南区認知症サポートネットワークの組織に参加しているものの管理者の交流のみである。	職員会議をしていないため、職員同士のチームワークは形成されていない。大事故が発生してからでは収拾がつかない。利用者の生命を預かっているという意識が欠如している。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	随時、管理者と会話できる環境作りを目指し、職員が長く働けるように工夫しています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部の研修に参加して頂き外部の研修も休み希望を優先し参加して頂き研修の機会を設けている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	南区認知症サポートネットワークに参加しており職員にも参加させて頂いています。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	アセスメントの情報を職員間で共有し安心して頂けるように努力し、コミュニケーションをとり困っている事や要望をききだし職員間で共有している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	アセスメントの時に現在の状況や不安な事を確認し関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービス利用前に自宅訪問の実施情報収集するとともに本人の要望等を聞いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常にご利用様と会話等を通してコミュニケーションをとり家庭にいるような安心感を持って頂けるようご自身で可能な事はやって頂くといったかたちで支えあう関係を築いていっています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人様と家族様の絆を大切にお互いに支え協力しあえる関係に努めています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	現在はコロナウィルス感染防止の為実行できていません。しかし入居時に面談した際の情報職員間でも共有しているため把握はしております。	関係支援はしていない。利用者から希望を聞けていない。	利用者は長い人生のあと、今グループホームで最後の日々を送っている。子どものころの友達、近所に住んでいた仲良し、仕事仲間、趣味の仲間、もう一度会いたい。生まれた家、結婚して住んでいた家、夫と出会った所、毎年花見に行った所、このような思い出の場所へもう一度行ってみたい。このような思いを支援することが求められる。
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様の間に職員が入り関係性を築けるように心がけ、行事やレクレーションをして他の利用者様や他の利用者様との交流を促し孤立しないように努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後も相談にものついでいけるよう関係を大事にしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常的利用者様と会話をしている中で、思いやどうい暮らし方がしたいのか聞き可能な限り検討し過ごしやすいよう努めている。	契約時に管理者が利用者、家族にグループホームの説明をし、利用者の医療、介護の情報を収集している。利用者の意向は[どうしていいか、わからない]や発語のない人もある。利用者の生活歴は京都、神戸等出身地、本屋等生家の仕事、姉、弟、4人姉妹の長女等兄弟姉妹のこと、30代に障害者の認定、ホテルのベッドメイキング、ハンコ作り等現役の時の仕事、独身、結婚後離婚等、趣味は折り紙、編み物等記録している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	これまでの生活歴を本人・家族からお聞きしケアにいかしています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりのできる事を職員が把握しケアにいかしています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的にモニタリングを行い、日々の様子課題を話し合っ変化が合う場合は計画作成担当者に随時報告しております。	利用者のアセスメントは計画作成担当者が実施、職員、医師の意見を踏まえて介護計画を作成している。介護計画は身体介護の項目が多く認知症への対応や暮らしの楽しみの項目はレク参加等であり、その利用者固有の楽しみではない。介護記録は食事量、水分量等生活のデータとバイタル、介護計画実施記録は職員の実施記録であり、利用者の発言や表情は書いてない。モニタリングは3か月ごとに短期目標の評価をしている。	認知症利用者の介護計画は身体介護のみならず認知症への対応の項目とどんな重度な利用者にも生活の楽しみの項目を入れること、介護記録は介護計画を実施したときの利用者の発言や表情を書きモニタリングの根拠となるようにすること、モニタリングは短期目標ではなく、介護計画の評価を毎月実施すること、以上の3点が求められる。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々利用者間の経過記録を記入し各自が問題点をあげ、どのようにすれば改善できるか職員どうして検討し、申し送りノートに記載し、情報共有を行っております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	現在はコロナウィルスの関係で買い物等は控えさせて頂いています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	国道沿いにありますが、少し歩くと神社や公園がありますので、コロナウィルスの感染状況が落ち着き次第行きたいと考えています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族様の希望に合う形でかかりつけ医の往診や受診に対応し何か問題があれば、総合病院つながり方を大事にして家族様とも相談している。	利用者には提携病院である吉件院病院の内科医師が毎月往診にきてくれ、かかりつけ医となっている。4人の利用者は入居前からの医師や病院を受診している。同行する職員が利用者の心身の状態を医師に報告している。認知症の受診は往診の医師がしている。歯科は訪問歯科医を利用している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回月1回看護師が訪問して職員から利用者様の状況をお伝えして適切な対処を支援してくださっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	月に何度か連携病院に訪問し利用者様の現状を確認し話をして関係性を心掛けています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	事業所として医療行為ができず退居となる旨を入居時に説明しています。できる限り事業所で生活が継続できるように主治医・看護師と連携を図り、家族も交え工夫し、スムーズに対応できるように心がけています。	利用者の重度化や終末期についてのグループホームとしての方針を契約時に利用者、家族に口頭で説明している。方針は「退居」である。それぞれの意向を聞いている。延命治療を望まない家族が多い。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	カンファレンスや常に職員同士で利用者様の状況を把握できるようにしています。急変時のマニュアルも作成しております。迅速な対応ができるように工夫しております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署立会いで年に2回消防訓練を行っている。指導があれば次回より取り組むようにしている。	火災に対する避難訓練は消防署の立ち合いのもと年2回実施している。地震、風水害については実施していない。訓練はエレベーターを利用して事業所の駐車場に避難している。備蓄は準備している。ハザードマップは掲示しているので職員は危険地域を認識している。災害時における法人内相互協力体制の規定はない。災害時に地域の人に協力してもらうことをお願いしていない。	避難訓練は火災だけでなく地震、風水害についても実施すること、災害時における法人内相互協力体制の規定を策定すること、災害時に地域の人に協力してもらうことをお願いすること、以上の3点が求められる。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者様が居心地の良い場所であると考えて頂ける。職員間でもご利用者様同士でのトラブルであっても慎重に声掛けや行動を行っている。尚、年長者としての尊厳を保ち、上から目線の対応にならないように注意しています。	利用者への言葉遣いや対応についての基本方針は「敬語を使い、命令口調やちゃん付け禁止」、職員研修し職員は生活の中での役割を大事にすることを徹底している。暮らしでは利用者を選択してもらうことを大事にしている。着る服も会話からどのような服がきたいのかを探り提供する。飲物を選んでもらうために各種を準備している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の関わりの中で本人の思いをくみ取り決定して頂ける環境づくりを行っています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	できる限り本人の希望をお聞きし、その方のペースに応じた支援をしています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	利用者様と相談しながらその季節にあった服装を来て頂けるよう努める。毎月第2水曜日に訪問美容を行っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者さまの要望に沿いながら協力して頂ける事があれば一緒に片付けや準備をして頂く。イベント等では手作りの食事を提供しています。	利用者の食事は3食とも副菜を購入している。ごはん汁ものをユニットで作り、副菜を湯煎して盛り付けている。毎月1回は手作りの日があり、ちらしずしをつくっている。食材は業務スーパーで購入している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事中は常に巡廻をし利用者様の日々の状態を考えながらケアに努める。具体的には本人の嚥下状態や食事摂取量に合わせ無理のない食事形態や食事を提供しています。尚、水分量にも着目し、一人ひとりこまめな水分摂取を心がけています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	朝夕食後に職員が見守り、その入に合った対応を行っている自分の力で歯磨きができる利用者様はご自分でやって頂けないご利用者様は職員で口腔ケアを行っている。訪問歯科のケアの指示を職員共有し、口腔ケアを行っています。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄パターンを理解した上で、トイレ上での排泄を心掛けている。立位が不安定で介助が必要な方は排泄パターンを活用し、トイレ誘導を行い、見守りや声掛けのみ対応にし、自立にむけた支援をしている。	尿意があり、トイレの場所を知っていて自身で処理できるという、排泄の自立をしている利用者は5人、日中もオムツ使用の利用者は2人、あとの人は職員が声掛けしてトイレ誘導している。自然排便を支援している。下剤は3人が常用、1人が頓用で服用している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事時又は一日の中で適度に水分を摂取している。また、ラジオ体操、室内での歩行練習を行い腹部に刺激をあたえています。こまめに医療機関に相談している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	週に2回入浴を行っている。入浴時は個々が楽しめるよう担当職員がプライバシーを尊重しながら会話をし、その際に本人の思いをお聞きしています。	入浴は毎週2回を支援しており、利用者は介助の職員や湯温について希望を聞いてもらっている。入浴拒否の利用者はいない。自身のシャンプーや化粧水をもっている利用者がある。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々にあった時間に気持ちよく寝れるように工夫している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	誤薬がないよう処方の際は間違いがないかの確認の徹底をしている。万が一誤薬等発生した際は主治医や看護師に連絡し、指示を頂いています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	現状では中々外出機会がコロナウィルスの為できない為、職員が常に付き添い洗濯物を干しにいたり、毎日レクリエーションをしたり工夫しております。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナウィルス感染予防の為できていません。	気候が良く大気のいい日、散歩ではなく、玄関前での外気浴を週1回くらいしている。以前は月1回散歩している。今は年4回くらいになっている。ドライブはしていない。利用者が「〇〇を買いたい」と言った時、職員が買物している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭トラブルの原因となる可能性がありますので、職員が代行して買い物等をしております。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	一部の利用者様は携帯電話を所持されていますが、家族様の希望がある方、自ら管理できる方には所持して頂いているが基本的にはお断りしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の物や四季を工作で作って廊下に飾っている。レクリエーションで行った写真を飾り見て頂けるように工夫している。	ホール(居間兼長室)には長卓と椅子をゆったり並べ、食事の時以外にも利用者がおしゃべりしたり、行事の時等に使っている。壁には行事や個人の写真を拡大して掲示したり、クリスマスツリーや七夕の飾りつけをしている。利用者及び職員が作成した季節の飾り絵、利用者の塗り絵等を貼っている。食卓の上に季節の花をいけている。ホームには花壇があり、花を育てている。ユリ、イチジクの花が咲いている。利用者が一人や気の合う人とゆっくりくつろげるようにソファをおいている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	仲のいい利用者様同士で過ごして一人で過ごされるのが、好きな利用者様もおられるので本人の意思に沿って工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	塗り絵が好きな方がいたりぬいぐるみに名前を付けて、可愛がられたり音楽を聞かれたりされ居心地よく過ごされている。	居室は洋間、ベッド、クローゼット、洗面台、机、椅子、衣類掛け等を設置している。利用者は筆筒、衣装ケース、絨毯、寝具、衣類、仏壇、位牌、アルバム、家族写真、椅子、テレビ、洗顔液、筆記用具、小説、英単語の本、大学ノート、クロスワードの本、オセロ、編み物等を持ち込んで自分の部屋にしている。壁には自作の塗り絵を貼り、季節の花を飾っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	その方の出来る事・できない事を把握し安全に生活できるように支援していきます。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域と手をつなぎみんなが笑顔になれる暖かい家庭をつくりますを事業所独自の理念を実践しています。	以下の項目すべて2階に同じ。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	現在はコロナウィルスにより参加や交流はできていません。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議で情報を提供・交換している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	サービスの状況をプリントし会議の席上で出席者の皆様に意見を述べてもらい向上に生かしている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	生活保護の方の入居も有り行政との連携など常にとっている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束0を目標として内部の研修をおこなっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	カンファレンスなどで職員同士意見を出し合い管理者に助言をもらい内部・外部で研修をおこなっている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	入居者の方で後見人の利用や日常生活自立支援事業の利用をされている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	十分な説明を行い理解納得をして頂けるように努める。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者様家族様に運営推進会議に参加して頂き要望や感想など意見を頂いている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	随時、管理者と職員が会話し利用者情報を把握し意見を出し合い話あっております。事故等に関しましては都度、現状からなぜ事故がおきたのかを考え、以後未然に防ぐ為に解決案を提示しております。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	随時、管理者と会話できる環境作りを目指し、職員が長く働けるように工夫しています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部の研修に参加して頂き外部の研修も休み希望を優先し参加して頂き研修の機会を設けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	南区認知症サポートネットワークに参加しており職員にも参加させて頂いています。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	アセスメントの情報を職員間で共有し安心して頂けるように努力し、コミュニケーションをとり困っている事や要望をききだし職員間で共有している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	アセスメントの時に現在の状況や不安な事を確認し関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービス利用前に自宅訪問の実施情報収集するとともに本人の要望等を聞いている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常にご利用者様と会話等を通してコミュニケーションをとり家庭にいるような安心感を持って頂けるようご自身で可能な事はやって頂くといったかたちで支えあう関係を築いていっています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人様と家族様の絆を大切にお互いに支え協力しあえる関係に努めています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	現在はコロナウィルス感染防止の為実行できていません。しかし入居時に面談した際の情報は職員間でも共有しているため把握はしております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様の間に職員が入り関係性を築けるように心がけ、行事やレクリエーションをして他の利用者様や他の利用者様との交流を促し孤立しないように努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後も相談にものっていけるよう関係を大事にしています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常的利用者様と会話をしている中で、思いやどうい暮らし方がしたいのか聞き可能な限り検討し過ごしやすいよう努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	これまでの生活歴を本人・家族からお聞きしケアにいかし、問題が生じれば随時その日に話し合い問題解決に努めております。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりのできる事を職員が把握しケアにいかしています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的にモニタリングを行い、日々の様子課題を話し合っ変化が合う場合は紙面に残し、サービス担当者会議に活かし、介護計画書に反映できるように工夫しています。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々利用者間の経過記録を記入し各自が問題点をあげ、どのようにすれば改善できるか職員どうしで検討し合っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	現在はコロナウィルスの関係で買い物等は控えさせて頂いています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	国道沿いにありますが、少し歩くと神社や公園がありますので、コロナウィルスの感染状況が落ち着き次第行きたいと考えています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族様の希望に合う形でかかりつけ医の往診や受診に対応し何か問題があれば、総合病院つながりを大事にして家族様とも相談している。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回月1回看護師が訪問して職員から利用者様の状況をお伝えして適切な対応を支援して下さっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	月に何度か連携病院に訪問し利用者様の現状を確認し話をして関係性を心掛けています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	事業所として医療行為ができず退居となる旨を入居時に説明しています。できる限り事業所で生活が継続できるように主治医・看護師と連携を図り、家族も交え工夫し、スムーズに対応できるように心がけています。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	カンファレンスや常に職員同士で利用者様の状況を把握できるようにしています。急変時のマニュアルも作成しております。迅速な対応ができるように工夫しております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署立会いで年に2回消防訓練を行っている。指導があれば次回より取り組むようにしている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者様が居心地の良い場所であると考え、頂ける。職員間でもご利用者様同士でのトラブルであっても慎重に声掛けや行動を行っている。尚、年長者としての尊厳を保ち、上から目線の対応にならないように注意しています。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の関わりの中で本人の思いをくみ取り決定して頂けける環境づくりを行っています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	できる限り本人の希望をお聞きし、その方のペースに応じた支援をしています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	利用者様と相談しながらその季節にあった服装を来て頂けるよう努める。毎月第2水曜日に訪問美容を行っています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者さまの要望に沿いながら協力して頂ける事があれば一緒に片付けや準備をして頂く。イベント等では手作りの食事を提供しています。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事中は常に巡回をし利用者様の日々の状態を考えながらケアに努める。具体的には本人の嚥下状態や食事摂取量に合わせ無理のない食事形態や食事量を提供しています。尚、水分量にも着目し、一人ひとりこまめな水分摂取を心がけています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	朝と夕長後に職員が見守り、その人に応じた対応を行っている自分の力で歯磨きをできる利用者様はご自分でやって頂けないご利用者様は職員で口腔ケアを行っている。訪問歯科のケアの指示を職員共有し、口腔ケアを行っています。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄パターンを理解した上で、トイレ上での排泄を心掛けている。立位が不安定で介助が必要な方は排泄パターンを活用し、トイレ誘導を行い、見守りや声掛けのみ対応にし、自立にむけた支援をしている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事時又は一日の中で適度に水分を摂取している。また、ラジオ体操、室内での歩行練習を行い腹部に刺激をあたえています。こまめに医療機関に相談している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	週に2回入浴を行っている。入浴時は個々が楽しめるよう担当職員がプライバシーを尊重しながら会話をし、その際に本人の思いをお聞きしています。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々にあった時間に気持ちよく寝れるように工夫している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	誤薬がないよう処方の際は間違いがないかの確認の徹底をしている。万が一誤薬等発生した際は主治医や看護師に連絡し、指示を頂いています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	現状では中々外出機会がコロナウィルスの為できない為、職員が常に付き添い洗濯物を干しにいたり、毎日レクリエーションをしたり工夫しております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナウィルス感染予防の為できていません。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭トラブルの原因となる可能性がありますので、職員が代行して買い物等をしておりません。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	一部の利用者様は携帯電話を所持されていますが、家族様の希望がある方、自ら管理できる方には所持して頂いているが基本的にはお断りしている。手紙のやり取りは字が記載できる方はされています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の物や四季を工作で作って廊下に飾っている。レクリエーションで行った写真を飾り見て頂けるように工夫している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	仲のいい利用者様同士で過ごして一人で過ごされるのが、好きな利用者様もおられるので本人の意思に沿って工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	塗り絵が好きな方がいたりぬいぐるみに名前を付けて、可愛がられたり音楽を聞かれたりされ居心地よく過ごされている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	その方の出来る事・できない事を把握し安全に生活できるように支援していきます。		